

入間市立宮寺小学校 いじめ防止基本方針

1 いじめの防止についての基本的な考え方

いじめは、いじめられた児童生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為である。また、どの児童も被害者にも加害者にもなりうる。これらの基本的な考えを基に教職員が日頃からささいな兆候を見逃さないように努めるとともに、学校全体で組織的に対応していく。

何より学校は、児童が教職員や周囲の友人との信頼関係の中で、安心・安全に生活できる場であってはならない。児童一人一人が大切にされているという実感をもつとともに、互いに認め合える人間関係をつくり、集団の一員としての自覚と自信を身に付けることができる学校づくりに取り組んでいく。そうした中で、児童生徒が自己肯定感や自己有用感を育み、仲間と共に人間的に成長できる魅力ある学校づくりを進める。

2 いじめ防止対策組織

「いじめ・不登校対策委員会」を設置し、いじめのささいな兆候や懸念、児童からの訴えを、特定の教員が抱え込むことのないよう、組織として対応する。

校長、教頭、教務主任、生徒指導主任、生徒指導部員、養護教諭等で構成し、必要に応じて、さわやか相談員、スクールカウンセラー等と連携する。

(1) 「いじめ防止対策組織」の役割

ア 「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組の実施と進捗状況の確認

・学校評価アンケート等で、学校におけるいじめ防止対策の検証を行い、改善策を検討していく。

イ 教職員への共通理解と意識啓発

・年度初めの職員会議で「学校いじめ防止基本方針」の周知を図り、教職員の共通理解を図る。

・学校評価アンケートや教育相談の結果の集約、分析、対策の検討を行い、実効あるいじめ防止対策に努める。

ウ 児童や保護者、地域に対する情報発信と意識啓発

・随時、学校だより等を通して、いじめ防止の取組状況や学校評価結果等を発信する。

エ いじめに対する措置（いじめ事案への対応）

・いじめがあった場合、あるいはいじめの疑いがあるとの情報があった場合は、正確な事実の把握に努め、問題の解消にむけた指導・支援体制を組織する。

・事案への対応については、適切なメンバー構成を検討し、迅速かつ効果的に対応する。また、必要に応じて、外部の専門家、関係機関と連携して対応する。

・問題が解消したと判断した場合も、その後の児童の様子を見守り、継続的な指導・支援を行う。

3 いじめの防止等に関する具体的な取組

(1) いじめの未然防止の取組

ア 児童同士の関わりを大切に、互いに認め合い、共に成長していく学級づくりを進める。

イ 縦割り遊びなどの異学年交流を実施して、望ましい人間関係づくりをしていく。

ウ 児童生徒の活動や努力を認め、自己肯定感を育む授業づくりに努める。

エ 教育活動全体を通して、道徳教育・人権教育の充実を図るとともに、体験活動を推進し、命の大切さ、相手を思いやる心の醸成を図る。

オ 学校公開日には、道徳の授業を必ず公開して保護者・地域への理解を図り、道徳教育

の充実に役立てる。

カ 情報モラル教育を推進し、児童がネットの正しい利用とマナーについての理解を深め、ネットいじめの加害者、被害者とならないよう継続的に指導する。

(2) いじめの早期発見の取組

ア アンケートを学期に1回（6月、11月、2月）全児童を対象に実施し、いじめの事実の有無を確認する。

イ アンケートにもとづく教育相談を定期的 to 実施し、児童の小さなサインを見逃さないように努める。（別紙1）

ウ 教師と児童との温かい人間関係づくりや、保護者との信頼関係づくりに努め、いじめ等について相談しやすい環境を整える。

エ いじめ相談電話等、外部の相談機関を紹介し、児童が相談しやすい環境を整える。

(3) いじめに対する措置

ア いじめの発見・通報を受けたら「いじめ・不登校対策委員会」を中心に組織的に対応する。

イ 被害児童を守り通すという姿勢で対応する。

ウ 加害児童には教育的配慮のもと、毅然とした姿勢で指導や支援を行う。

エ 教職員の共通理解、保護者の協力、スクールソーシャルワーカー等の専門家や、教育委員会、狭山警察署、所沢児童相談所、入間市役所子ども支援課等の関係機関との連携のもとで取り組む。

オ いじめが起きた集団へのはたらきかけを行い、いじめを見過ごさない、生み出さない集団づくりを行う。

カ ネット上のいじめへの対応については、必要に応じて警察署や法務局等とも連携して行う。

4 重大事態への対応

(1) 重大事態が生じた場合は、速やかに教育委員会に報告をし、「重大事態対応フロー図」に基づいて対応する。

(2) 学校が事実に関する調査を実施する場合は、「いじめ・不登校対策委員会」を開催し、事案に応じて適切な専門家を加えるなどして対応する。

(3) 調査結果については、被害児童、保護者に対して適切に情報を提供する。

5 学校の取組に対する検証・見直し

(1) 学校いじめ防止基本方針をはじめとするいじめ防止の取組については、PDCAサイクル（PLAN→DO→CHECK→ACTION）で見直し、実効性のある取組となるよう、努める。

(2) いじめに関する項目を盛り込んだ教職員による取組評価及び保護者への学校評価アンケートを実施（11月）し、いじめ・不登校対策委員会でいじめに関する取組の検証を行う。

6 その他

(1) いじめ防止に関する校内研修を計画し、児童理解やいじめ対応に関する教職員の資質向上に努める。

(2) 長期休業中の事前・事後指導を行い、休業中のいじめ防止に取り組む。

(4) 毎週行われる職員朝会（木曜日）で、生徒指導に関する情報交換を行い、いじめに関する情報交換を行い、情報共有を図る。

別紙 1

いじめられた児童のサイン

いじめられた児童は自分からは言い出せないことが多い。複数の教職員が、複数の場面で児童を観察し、小さなサインを見逃さないようにする。

場面	サイン
登校時 朝の会	<ul style="list-style-type: none"> ・担任が来るまで教室で待っている。 ・理由のはっきりしない遅刻や欠席が多くなる。 ・返事や声が極端に小さくなる。
授業中	<ul style="list-style-type: none"> ・遅れて教室に入ってくる。 ・忘れ物が多くなる。 ・机の周りが散らかっている。 ・話し合いの輪に入れない。 ・ほめられると、嘲笑やからかい等が起こる。 ・正しい意見なのに、冷やかされる。 ・持ち物や作品、掲示物、机などに落書きをされる。 ・その子への配付を嫌がる雰囲気がある。 ・内緒話をされている。 ・机やイスが離されている。 ・保健室やトイレなどに行く回数が増えている。
休み時間	<ul style="list-style-type: none"> ・一人でポツンとしている。 ・笑顔が見られない。 ・格闘技ごっこなどをやらされている。 ・衣服が汚れている。
給食	<ul style="list-style-type: none"> ・机を寄せない、隙間がある。 ・食べ物にいたずらされる。(意図的な配り忘れ、盛り付け量の差) ・食欲がない。 ・配膳を嫌がられている。 ・特定の片付けばかりさせられている。
清掃	<ul style="list-style-type: none"> ・机やイスが運ばれない。 ・いつも同じ役割をさせられたり、後片付けさせられたりする。 ・1人で黙々と掃除しているが、表情が暗い。
下校 放課後	<ul style="list-style-type: none"> ・急いで下校する。 ・机やロッカーが荒らされている。 ・持ち物がなくなる。 ・1人で帰ろうとしたり、遠回りして帰ろうとしたりする。 ・荷物を持たされている。
その他 学校生活全般	<ul style="list-style-type: none"> ・嫌な仕事や大変な仕事を押し付けられる。 ・ふざけた雰囲気や無理強いで、班長や役員などを押し付けられる。 ・日記や絵画作品などに、かげりのある表現が見られる。

→ 該当する項目があれば、子どもに声をかける。
 複数ある場合は、学年や生徒指導主任、管理職などに相談する。